

論文内容要旨

論文題目

セルフチェックシートを用いた訪問看護ステーションの管理運営の実態と収支との関連

教育・研究領域：生涯生活支援看護学

氏名：藤井千里

【内容要旨】

本研究は、訪問看護ステーション(以下、ステーション)の管理運営上の安定を図るために、「財務」や「利用者確保」「職員確保」の視点を網羅した管理運営に関するセルフチェックシートを作成し、作成したセルフチェックシートを用いてステーションの管理運営の実態を把握し、収支との関連を明らかにすることを目的とした。

セルフチェックシートは、ステーションにおける管理運営上の目指す方向を示し、経営理念の視点と管理過程論の枠組みに即して「財務」等の内容を盛り込み、182項目で構成した。収支との関連では、実施している項目数は、目指す方向全てにおいて、黒字群は均衡・赤字群よりも有意に多い結果であった。

このことから、作成したセルフチェックシートは、収支との関連を確認できるツールとしての可能性が示唆された。今後は、項目を精選し、現場で活用できるツールを作成していくことが課題である。

平成 30年 1月 23日

山形大学大学院医学系研究科長 殿

学位論文審査結果報告書

申請者氏名：藤井千里

論文題目：セルフチェックシートを用いた訪問看護ステーションの管理運営の実態
と収支との関連

審査委員：主審査委員 片岡 ひとみ

印



副審査委員 小林 淳子



副審査委員 大竹 まり子



審査終了日：平成 30年 1月 10日

【 論 文 審 査 結 果 要 旨 】

本研究は、訪問看護ステーションの管理運営上の安定を図るため、「財務」「利用者確保」「職員確保」の視点を網羅した管理運営に関するセルフチェックシートを作成し、作成したセルフチェックシートを用い、訪問看護ステーションの管理運営の実態を把握し、収支との関連を明らかにすることを目的としている。

本研究は、セルフチェックシートを作成するにあたり、経営理念の設定、管理過程論の枠組みに即してセルフチェックシートの項目を検討し、さらに管理運営上の4つの目指す方向を位置づけている点特徴的である。次に、4,113箇所を訪問看護ステーションの管理者を対象としたセルフチェックシートを用いた質問紙調査では、182項目中項目を実施していると答えた割合（以下実施率）が80%以上の項目が76項目、20%未満はICTに関する1項目のみであった。収支との関連については、4つの目指す方向全てにおいて収支との関連が認められ、黒字群の実施率が高い結果であった。さらに、黒字群は均衡・赤字群に比べ実施している項目数が有意に多い結果であった。今回作成されたセルフチェックシートは、訪問看護ステーションの管理運営の実態を把握し、管理運営上の安定につながる可能性が示唆され、今後、作成されたセルフチェックシートを活用することによって、訪問看護ステーションの管理運営上の安定につながる可能性が期待できる。

論文は規定に即して記述されており、倫理的配慮を始めとする研究の手続きは適切である。得られた結果、考察、結論等に対する審査委員からの質問や指摘に対して真摯に対処されており、その内容は納得できるものであった。

以上のことから、本論文は博士論文として相応しいと評価した。

(1, 200字以内)